

◇2017年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(中学校)〈抜粋〉◇

今回の調査は2017(平成29)年度に実施された全国の中学校の修学旅行に関するもので、国立、公立、私立の中学校10,325校から2,999校(29.0%)を抽出しアンケート調査を行った。回答は988校(回答率32.9%、前回31.6%)からあり、その内訳は国立20校(28.2%)、公立795校(36.9%)、私立173校(22.3%)である。全国校数に対する回答率は9.6%(前回調査9.1%)である。

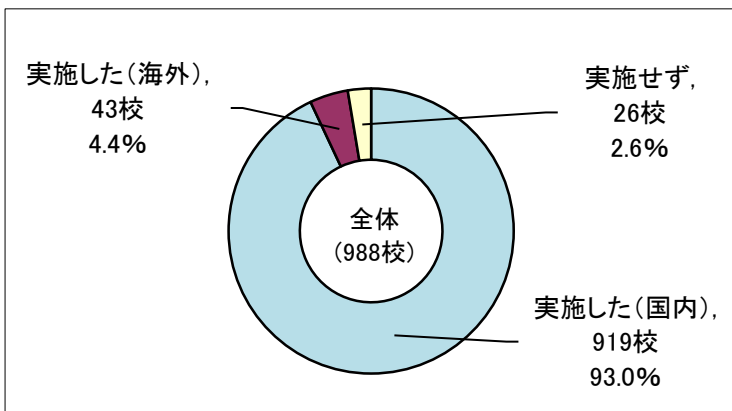
設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	71	9,479	775	10,325
抽出校数	71	2,153	775	2,999
抽出率%	100.0	22.7	100.0	29.0
回答校数	20	795	173	988
抽出校数に対する回答率%	28.2	36.9	22.3	32.9
全国校数に対する回答率%	28.2	8.4	22.3	9.6

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況 (2)不参加生徒の有無・理由 (3)実施時期 (4)実施学年 (5)保健指導のための引率者
(6)旅行日数 (7)旅行費用 (8)主な交通手段 (9)旅行内容「重点をおいた活動、旅行先、宿泊地・利用見学先等」(10)班別自主行動 (11)体験学習 (12)防災(避難)訓練の取り組み (13)アレルギー対策
(14)事前・事後学習の取り組み

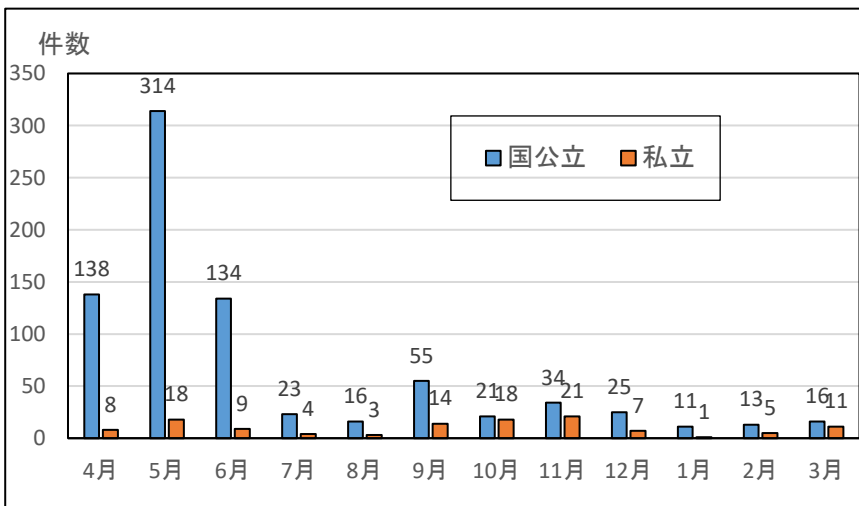
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細についてはデータブック教育旅行年報をご覧ください。

1 修学旅行の実施状況



回答のあった海外修学旅行も含めた実施率は97.4%で、前回98.9%より若干下がった。また全体では、海外修学旅行の実施校の割合が前回調査3.0%から4.4%と1.4ポイント上がった。今回調査では、私立の海外の実施の割合がかなり増えたことが要因となっている。その結果、国内修学旅行の実施校の全体の割合は、前回調査95.9%から93.0%と2.9ポイント下がった。

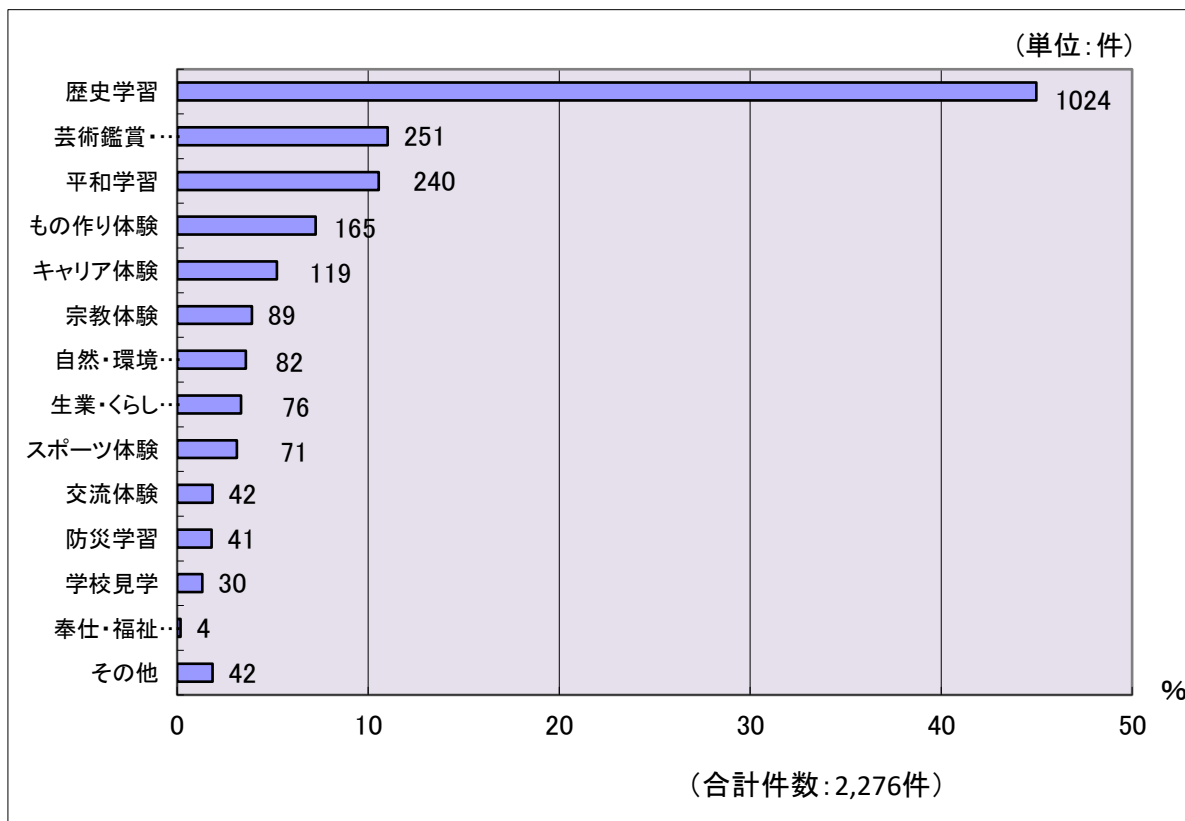
2 修学旅行実施時期



国公立は、4・5・6月実施が73.2%(前回調査69.7%)で前回調査より3.5ポイント上がった。今回調査では、特に9月が2.3ポイントの減少が見られた。前回調査では熊本地震の影響で春から秋への変更の影響と思われる。また3学期に実施している公立中学校は、すべて2年生で実施している。

私立は、9月から11月の秋の実施が全体の44.5%(前回調査47.8%)と多い。

3 重点を置いた活動の分類別件数・比率



修学旅行で重点をおいた活動や目的が何であったかを割合に表した「修学旅行で重点をおいた活動(分類別)の件数」としてグラフに示した。

その中で、史跡・町並み・産業遺産・博物館等の見学などの歴史学習に重点をおくものが45.0%(前回調査45.8%)と毎年1位を占めている。ミュージカル・演劇・歌舞伎・文楽・能楽等の鑑賞、伝統文化・伝統芸能や祭り体験、美術館等の見学、コンサート・音楽鑑賞などの芸術鑑賞・体験が11.0%(前回調査11.5%)、平和学習が10.5%(前回調査9.5%)、伝統工芸・料理・食品加工などのもの作りが7.2%(前回調査6.8%)となった。また、職場訪問・職場体験、販売・商業体験などのキャリア体験が5.2%(前回調査4.9%)、宗教体験(座禅、法話、写経等)は3.9%(前回調査4.5%)、野外活動・環境学習などの自然・環境学習の分野が3.6%(前回調査4.3%)、農業・林業・酪農・漁業・いなか暮らし体験などの生業・くらし体験が3.3%(前回調査3.2%)、スポーツ体験が3.1%(前回調査3.7%)となった。



とうもろこし収穫体験(宮崎県)
(画像提供: 北きりしま田舎物語推進協議会)



ハネト体験(青森県)
(画像提供: ねぶたの家ワ・ラッセ)

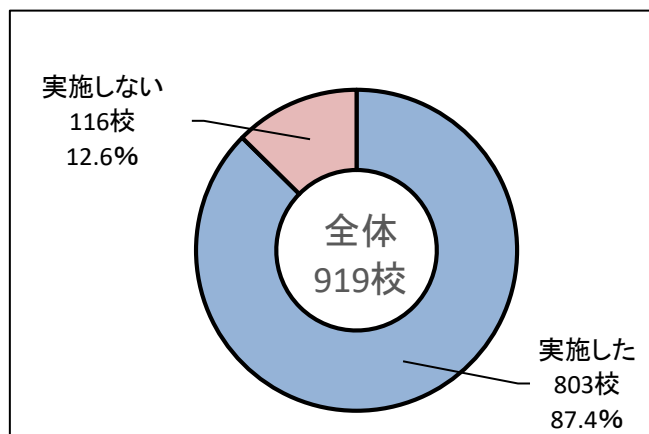
4 都道府県別旅行先上位20

順位	順位			旅行先	件数	構成比
	今回	前回	前々回			
1	1	1	1	京都	413	20.7
2	2	2	2	奈良	370	18.5
3	3	3	3	東京	216	10.8
4	4	4	4	千葉	181	9.1
5	5	5	5	大阪	157	7.9
6	6	6	6	沖縄	92	4.6
7	7	7	7	神奈川	74	3.7
8	10	11	11	広島	71	3.6
9	9	8	8	長崎	59	3.0
10	8	9	9	福岡	56	2.8
11	11	10	10	兵庫	35	1.8
12	12	13	13	北海道	27	1.4
13	16	12	12	熊本	24	1.2
14	17	20	20	滋賀	19	1.0
15	14	18	18	岩手	17	0.9
16	23	17	17	鹿児島	16	0.8
17	19	19	19	佐賀	14	0.7
18	15	15	15	長野	12	0.6
19	20	24	24	青森	11	0.6
20	18	28	28	秋田	10	0.5

カウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。

その中で、今回調査で上位については大きな変動は見られない。7位までは前回調査と同じ順位になった。大きな変動として、滋賀県が前々回20位から前回17位、今回14位、鹿児島が前回23位から今回16位に上がったことがあげられる。また、震災の影響があった熊本は前回16位から今回13位、岩手が前回14位から今回15位と健闘した。

5 班別自主行動実施率

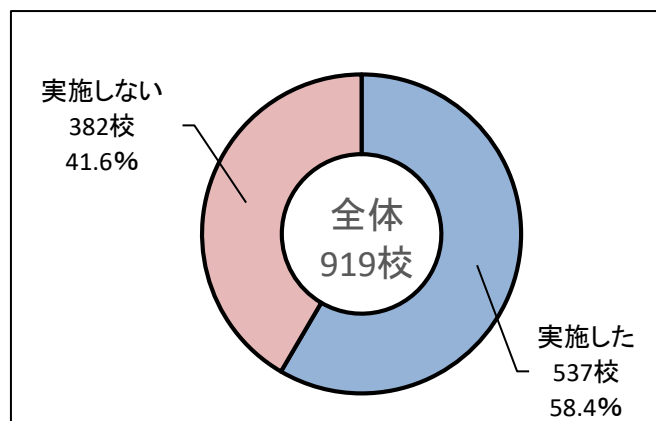


今回も80%を超え、全体で87.4%の実施率であった。

参考までに、過去の実績をあげてみると、2012(平成24)年度が80.3%、2013(平成25)年度81.5%、2014(平成26)年度86.2%、2015(平成27)年度は87.1%、前回2016(平成28)年度が86.9%、であった。

「主体的・対話的で深い学び」が求められる新学習指導要領のもと今後も多くの学校が、体験学習との関連も含め班別自主行動を取り入れていくと考えられ、的確な目標設定がますます重要となるだろう。

6 体験学習実施率



体験学習実施率は、全体で58.4%(前回調査58.2%)とほぼ同じであった。体験学習実施率が昨年より60%を切っている。理由には、体験学習に費やすことのできる費用が少なくなっていることがあると思われる。

新しい学習指導要領の改訂の柱として「主体的・対話的で深い学び」との方向性が示されている。「主体的・対話的で深い学び」を構築するには今後修学旅行においても今まで以上に班別自主活動や体験学習の目的を明確にしておくことが重要で充実を図る必要がある。